

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	19年	12月	4日
事業所名	ハートフルハウス グループホーム「よろこんぶ」			
事業所番号	2375000300			
記入者名	職名	介護職	氏名	木原 伸
連絡先電話番号	0561 61-2272			

(様式1)

自己評価票(参考例)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で考えた「よろこんぶ改善」(個別援助計画の作成プロセスを改め、より入居者本位の援助計画を作成する。また作成段階でケース会議を開き、多くの職員が計画に関わりまたみんなで実行していく。個別援助計画の説明や家族会等で、ご家族との接点を多くし入居者のことをいっしょに考えていく。介護事故防止のためヒヤリハットリポートを実際には、事故にならなかった事例についても、気が付いた時点で書きとめる。またミーティングで対策を話し合い情報を共有化することで、事故防止に役立てる。改めて各入居者の今までの人生、背景を再確認し、人格を尊重し年長者に対する敬意を持った接し方で介助させていただく。の4点をリビングに掲げているが読まれていない。	・「よろこんぶ改善」の再度の見直しの実施
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ハートフルハウスの経営理念(経営理念、社会的役割、経営方針)をリビングに掲示し目につくところにおいている。 ・月2回のミーティング(以下:MT)にて確認。また、1年に3日間の社内研修において理念の確認をしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・周知はしているものの理解にまで至っていない。	・町内会と共に防災の勉強会を実施したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・近所の方とは挨拶程度は努めているものの気軽に立ち寄ってもらうところまでには至っていない。</p>	<p>・挨拶を今以上に実施し運営推進会議を通して近所へ「よろこんぶ」のアピールを考えている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・地域活動（おまつり、草取り、フリーマーケットなど）に参加し地元の人々と交流することに努めている。</p>	
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会議において「よろこんぶ」の入居者を含む町内全体の高齢者（独居世帯や高齢者単独世帯）に対する防災体制作りを計画中。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・3年前より毎年自己評価から外部評価を実施することで、その中から介護の気づきを得ることができた。また、入居者への介護方法の統一などができたこともあり評価を活かして具体的な改善に取り組むことができた。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議において評価への取り組み状況等について報告や話し合いを実施していない。</p>	<p>・今回の外部評価の結果を運営推進会議において報告し今後のサービス向上に活かしていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡会において防災のテーマで長久手町役場の安心安全課、福祉課、消防署と話し合いの場を設けている（平成19年3月実施）。 ・包括支援センターの地域ケア会議の勉強会に参加している。 ・長久手町委託のシニアワークプログラムの講師の実施 		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 官理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方で2名利用しておりご家族へ情報提供をした。 ・地域権利擁護事業の講習会への参加 		
11	虐待の防止の徹底 官理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ機会は持っていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ機会を持つことで職員間で改めて「虐待とは何か」を考え、入居者への対応を考えていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時はご本人、ご家族へ契約書、重要事項説明書を元に説明し同意を得ている。また、契約内容変更時は個別、または家族会等において説明、同意を得ている。 		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の住環境等の希望を伺い、できるだけ沿うように改築等を実施している。 ・具体的な話し合いは行っていないが表情や仕草などから気持ちを読み取り利用者がより良い生活を営めるよう努めている。 		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2月に1回（偶数月）のよるこんぶだよりの発行や2月に1回（奇数月）の家族会の実施などにおいて報告している。また、適時入居者のことで個々に報告している。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・訪問時や家族会や個々の個別援助計画更新の時にコミュニケーションをはかり運営に反映するよう努力している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月2回のMTにおいて意見や提案を聞く機会を設けている。 ・年に1度会社より個別に意向調査を実施し意見を反映している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・かかりつけ医以外の入居者の通院の介助は基本のご家族をお願いしているが入居者やご家族の状況によっては職員が要望に応じ対応（有償）している。ただ、事故などで急な時は対応できない時もある。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・現在、勤続年数5年以上の正職員が1名、4年以上の正職員が3名、2年以上の正職員が2名いる。パートでも2年以上勤務の方が3名おり異動や離職は比較的少ない。		
5.人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に心して育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・「よろこんぶ」内の担当（口腔ケア担当や介護方法担当など）別に必要な研修への参加を促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡会（平成16年5月より年4回の勉強会。今までのテーマは「ケアプラン」「ターミナルケア」「防災」「医療面について」「勤務体制」「困難事例」「介護保険改正後の各グループホームの現状」「運営推進会議」「食事について」「口腔ケアについて」）を実施し交流を深めている。 ・愛知県グループホーム協会に加盟している。 ・あいち小規模多機能ケア連絡会に加盟している。 		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の慰労を目的に法人内の行事を実施しているが職員はあまり感じられていない。 ・社長が季節ごとに旬の食材（山菜や果物など）を持ってきてくれるので入居者と職員は感謝している。 		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内で自由に意見を言えるように努力している。 		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居希望の本人やご家族にまず施設内見学と他入居者の状態を知っていただき雰囲気を知っていただく。その上で面談を実施し疑問点や不安点を聞き何か意見等あれば応える様に努力している。 		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	同上		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・新規に入居希望があった時に満床の場合は長久手町内のグループホームに入居者の紹介をしている。(前述のグループホーム連絡会を通して交流をした結果、相互に入居者の紹介するなどの協力体制を得ることができた。)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・(事例：法人内のデイサービスの利用者が入居を希望した時はリロケーションダメージ等がおきないように配慮し安心して入居できるように努力した。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・現在、入居者の方は介護度4の方が6名、要介護度3の方が2名、要介護度1の方が1名という状態で入居者の重度化が進んでいる。その中でどのように支え合う関係を築いていくのが課題。ただ、職員は入居者とのコミュニケーションを通し喜怒哀楽を共有することで元気をもらっていることが多々ある。		・今後も折をみて考えていく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族会や行事において家族と共に入居者を支える努力をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・定期的な訪問(家族会や衣替えのお願いなど)をしていたくことなるべく関係が継続できるように努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・個々の入居者の馴染みの場所や人がいた場合は実現できるように努めている。今年の10月には入居者の同窓会への参加が出来るようにご家族と協力した。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>・入居者同士の相性を鑑み、買い物や散歩を通じ支え合う様に(例えば、歩行の際に転倒しないように入居者同士が自主的に「ええか?」と手を繋いだり、寒くない様に上着を貸したりなど)努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>・こちらからは積極的な取り組みは実施していない。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・努めているものの不十分</p>		<p>・個々にご家族へ個別援助計画の更新や面談を通して改めて思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・努めているものの不十分</p>		<p>・個々にご家族へ個別援助計画の更新や面談を通して改めて思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ケース記録は出勤者全員が必ず記入し1日の過ごし方の把握をしている。また朝はバイタルチェック(血圧、脈拍、体温)を実施し個々の入居者の体調管理をしている。体調不良がある時は併設のデイサービスの看護師に連絡し状態を見てもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・各入居者の担当が入居者本位に考え個別援助計画(案)を作成。MT等においてご家族、各職員の意見等を取り入れ個別援助計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・基本的に半年に1回の見直しだが入居者の状態に変化があった場合は月に2回のMT等において計画の見直しの話し合いをし現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日出勤者は入居者の様子を記入し情報情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・ハートフルハウスではGH以外の事業があり現在、昼食は宅配給食の「玉手箱」を利用している。また入居者の状態が悪化した場合は訪問入浴の利用を検討したことがある。 ・別事業所の託児事業「はーとまみい」が建物内にあり時々、交流している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・有事の際の備えとして防災をテーマにGH連絡会において長久手町や消防との話し合いの席を設けた。</p>	
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・利用者、ご家族等に福祉サービスの紹介、利用までの援助（おむつの利用、インフルエンザ予防接種、健康診断）をしている。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・地域ケア会議にでて協働を目指している。</p>	
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・月に2回永井内科と田村歯科の往診がある。また入居者に何かあった時は、適時連絡のつく状態になっている。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・地域医師会の勉強会に参加し専門医への相談受診ができるようにしている。認知症の症状により名大や共和病院の専門医に受診している。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・毎日定期的に併設のデイの看護師が立ち寄りバイタル表を確認している。それ以外にも入居者に医療行為（摘便や傷の処置など）の必要があれば対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・日頃より永井内科・田村歯科と連携し情報交換している。また個々の入居者の既往歴や現病歴や現在の処方薬名などをまとめた個別健康管理指針を作成している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・重度化の兆しがあった時または家族より重度化や終末期に関して不安を抱く場合などに、個々の入居者に関して家族、介護職、医師、看護師などと話し合いの場を持ち情報を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・必要があれば家族や職員と話し合い等し検討、準備している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・グループホームから在宅へ戻られた入居者も何人かおられるがその時は円滑にできるよう同法人等へのデイサービス等へ紹介、情報提供をしている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いについてできていない部分がある。</p>		<p>・今後高齢者虐待防止法の勉強を通して言葉かけや対応を考えていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者本位の生活を心がけているが意志をくみ取る意識が十分とはいえない。		・自己決定の支援についての話し合いをする。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者本位の生活を心がけているが意志をくみ取る意識が十分とはいえない。		・共同生活という環境の中で「その人らしさ」をどの様に活かしたら良いのか話し合いをする。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・基本的に入居者の散髪は訪問美容師にお願いしており本人や家族の希望を取り入れた髪型にしている。また入居者の中には希望により定期的に馴染みの美容店に通っている方もいる。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ほぼ毎日入居者と共に買い物に行き食材を見て選んでいる。また入居者と介護職が食事を入居者と一緒にとり楽しむよう支援している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・その都度、入居者に合わせた嗜好品（晩酌等）を提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・個別に排泄チェックを24時間表で管理し排泄パターンを把握するよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・ゆず湯や菖蒲湯など季節を楽しめる様な入浴を実施している。また音楽をかけたりや会話を楽しんだりするなどなるべく安心して入浴できるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・傾眠などがある入居者には居室で休んでいただくなど休息できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・年に1回の一泊旅行や普段のお出かけ行事などを計画し予定を伝えることで楽しみや張り合いが出るような支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・普段は金銭を入居者に持っていただくことはしていない。ただ、お出かけした際には入居者とお土産コーナーなどを回り希望がある入居者には土産物が買える様に支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・季節が感じられるように入居者の状態を見ながら毎日の買い物や散歩やお出かけ行事を実施し外の空気に触れられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・一泊旅行や年間行事のお出かけを実施し家族も誘っている。また個別に希望があれば喫茶店や同窓会などに行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族から電話があれば取り次ぐ。また年賀状作りを一緒にやり家族へコメントなども書けるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・来客の際に入居者の状態をみてゆったりできるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・本人に危険がない限り身体拘束はしていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、基本的に鍵はかけないが職員が少なく入居者に危険が伴う時は鍵をかける。危険な状態がなくなれば再び開錠する。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・その日の勤務者全員が連携し入居者の状態を把握し安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・誤飲、誤食がない様に必要に応じて危険なものは入居者の手の届かない場所に保管、管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・緊急連絡網を作成し、個々の入居者の情報と写真入りの個別カードの作成をしている。また入居者の状態によって徘徊が強い場合は個別に徘徊探知機を使用。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・すべての職員が訓練を定期的に行っていない		・社内研修において来年度取り組む
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・まだ働きかけていない		・運営推進会議で取り組む
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、転倒などの事故があった場合は報告書を書き説明。今後の対応の話し合いをMT等で行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・ケース記録、バイタルチェック、個別健康管理指針により職員間の情報を共有している。また看護師の毎日の来訪により介護職とは別の視点での変化をみてもらい何かあった場合は対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別健康管理指針を作成・改善していくことで服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・ 普段より食物繊維や乳製品などが取れる様に食事の内容を気をつけている。また出来る限り運動などもしていただくが、それでも出ない日は座薬日を設け排便を促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・ 個別の口腔ケア方法を一覧の表にまとめ洗面所には口腔ケアの方法を貼り方や情報の統一をしている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ 一日を通して普段より食事摂取量が少ない人には適時食べやすい食事（好物や柔らかいものなど）を提供。また家族に昔から好きだったものなどを聞くなど情報収集をし提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・ 社内研修の中で感染症の講義があったり感染症対策マニュアルは設置しているが周知していない。		・ 感染症マニュアルの見直しを通して予防や対応を考えていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・ 職員が責任を持って管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・ 築100年の古民家を利用しており住宅地の中で違和感のないようなつくりになっている。また日中、門の鍵はあけ誰もが出入り出来る様に工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者の状態に応じて手すりを設置している。花を植えたり野菜を庭で栽培したりして生活感や季節感を採り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者の方は基本的にはリビング（食堂）で過ごされるが、状態に応じて居室、和室、ベランダ、第二リビングを使用し居場所の工夫をしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室には本人の使い慣れたものや好みのものをおいている。また入居時だけでなく家族会などにおいて家族と相談して今の入居者にとって最適の住環境を整えるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎日の換気を必ずし各個人に応じた温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・古民家の良いところを生かしつつ入居者の状態の変化に応じて手すりやテラスの設置等の増改築を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室や食事の席をなるべく変えずに混乱を防ぐ工夫はしているもののアセスメントが不十分。		・その方にとって「わかる力」とは何かということを話し合う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・天気の良い日はテラスで日向ぼっこをしている。中庭では畑と花を作り楽しめる様にしている。併設のデイにいる犬の餌やりもできるように支援している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族会旅行を年に1回企画。今までに岐阜県高山市、三重県伊勢市、滋賀県彦根市、静岡県浜松市、長野県諏訪市に入居者、家族、職員で行きました！旅行の時は入居者の普段見れない表情がみれ職員は毎年楽しみにしています。

日常の入居者の様子をよるこんぶだよりとして2月に1回送っています。意欲的に取り組んでいます。

もったいない運動を実施しています。光熱費やゴミを減らすと共に環境にも配慮した運動です。

グループホーム連絡会を平成16年5月よりお互いの資質の向上と交流を目的に、3ヶ月に1回程度で実施。防災や食事や勤務体制などテーマを変えて実施。

暖炉と釜戸があり家族会などで大勢人がいる時は使用しています。

託児所の「はーとまみい」(別法人)が建物内にあり時々入居者と子どもが交流しています。